

令和4年度年度末自己評価書

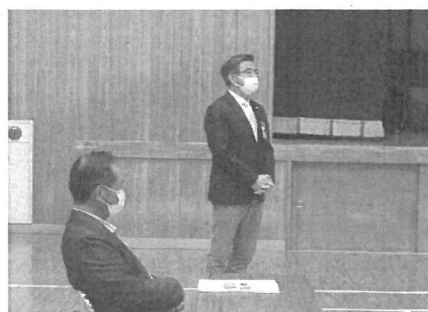
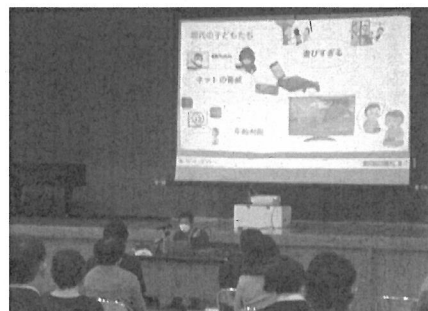
令和5年1月 愛南町立城辺小学校

【評価基準】					判定	考察(◆)と改善方策(◇)
重点目標		目標	評価者	目標値 肯定90%以上		
1	社会総がかりで取り組む教育	1 CSの研究と実践による開かれた信頼される学校づくりを行う。	教職員	100	A	◆教職員・保護者・地域関係者ともに高い肯定率である。特に保護者の評価が上がっている。2学期は、教育活動の制限がやや緩和され、保護者や地域関係者に理解・協力をしていただきながら学校運営ができた。 ◇今後も、保護者や地域、学校が連携しながら、ウィズコロナ・アフターコロナの中でできる教育活動を積極的に推進し、信頼される学校づくりに取り組んでいく。
			児童			
			保護者	92	A	
			地域関係者	92	A	
	2 地域の人的・物的環境を活用する。	教職員	100	A	◆教職員・保護者・地域関係者ともに高い肯定率である。特に教職員・保護者の評価が上がっている。2学期にも、稲刈りやもちつき、しめ縄づくりなど、地域とのつながりのある教育活動を実践することができた。また、読み聞かせや見守り隊、総合的な学習の時間のゲストティーチャーとしても協力していただいた。 ◇今後も、コロナ禍の中で、地域の人的・物的環境を活用できる方策を模索し、実施していく。また、ホームページや学校便りで地域に学校の情報を発信していく。	
		児童				
		保護者	96	A		
		地域関係者	94	A		
学校運営協議会委員の所見		○教職員・保護者・地域関係者ともに高い肯定率であり、すばらしい。 ○コロナ禍の中でも活動が緩和され、児童は行事等に楽しく参加することができた。保護者、地域関係者も、その姿を見たり一緒に参加したりすることができ、共に喜ぶことができた。児童にとって楽しかった経験は、いつまでも心に残っていると思う。 ○学校・保護者・地域が協力し合って、よい学校づくりができていっているように思うので、これからもつながりのある教育活動を続けてほしい。地域みんなでできることを協力したいと思っている。 ○もちつきの際は人手が足りなくて大変だった。もちつきからおにぎりになっても協力したい。				
学校の対応		○もちつき等、総合的な学習の時間を中心に、地域の人的・物的環境を生かし、充実した教育活動を創造していく。その際、よりよい方策を模索しながら実施していく。 ○今後も、保護者や地域、学校が連携しながら、ウィズコロナ・アフターコロナの中でできる教育活動を積極的に推進し、信頼される学校づくりに取り組んでいく。また、ホームページや学校便りで地域に学校の情報を発信していく。				
2	一人一人を見つめ、育てる生徒指導の徹底と健全育成の推進	3 「いじめは絶対に許さない、見逃さない」学校づくりに努める。	教職員	100	A	◆1学期と同様に、教職員・児童・保護者・地域関係者ともに高い肯定率である。しかし、100%の肯定率を目指す項目であるため、そうでないことに課題がある。 ◇保護者や地域と連携し、いじめに対する共通理解を図っていく。 ◇今後も日常の児童との温かい人間関係づくりに努め、悩みや困り事等を相談しやすい環境を整える。また、学級活動等を通して児童自身のSOS発信力を育てるための手立てを講じる。 ◇定期的に生活アンケートや教育相談を行うことにより実態を把握し、いじめの早期発見に努める。
			児童	97	A	
			保護者	93	A	
			地域関係者	97	A	
	4 「凡事徹底」と規範意識の醸成を図る。	教職員	100	A	◆教職員・児童・保護者・地域関係者ともに高い肯定率である。特に保護者の評価が上がっている。1学期の課題であった挨拶についても、あいさつ運動の推進により、挨拶に対する児童の意識が高まったと考えられる。 ◇あいさつ運動の活性化を図るとともに、保護者や地域と連携をしながら、今後も挨拶についての指導を継続していく。 ◇児童の地域での様子について、保護者や地域からの情報収集に努め、機を捉えて指導を行い、規範意識を醸成するための手立てを講じていく。	
		児童	93	A		
		保護者	98	A		
		地域関係者	93	A		
学校運営協議会委員の所見		○先生、児童、保護者、地域の全てでいい評価となっていることは喜ばしい。挨拶から始めよう！ ○学校に行くとき玄関に大きく「おはよう」の文字があり、挨拶を意識するような工夫がされていると思う。最近、子どもが少しずつ自分から挨拶するようになり、挨拶への意識が高まってきている。 ○日々の生活の中で、自然と発することができる挨拶は、子どもの前で大人から声を出して言えるといい。「ありがとう！」の言葉はとても気持ちがいい。 ○個々の考えを認め、場に応じた対応をしている先生方に感謝したい。 ○児童の様子に気を配り、変化に反応できるように注意して接することに、常に心掛けてほしい。 ○日常の児童との温かい人間関係づくりに努めて、悩みや困りごとを相談しやすい環境を続けてほしい。				
学校の対応		○今後も日常の児童との温かい人間関係づくりに努め、悩みや困り事等を相談しやすい環境を整える。また、更によりよい学級づくりに努めるとともに、児童自身のSOS発信力を育てるための様々な手立てを講じる。 ○挨拶は、継続的な指導が効果を発揮する。マンネリ化せず、児童の自主性が育つような方法を、児童会を中心に考え、実行していく。 ○児童の地域での様子について、保護者や地域からの情報収集に努め、機を捉えて指導を行い、規範意識を醸成するための手立てを講じていく。				

【評価基準】						
A : 目標を達成 B : 8割以上達成 C : 6割以上達成 D : 6割未満					考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	
4	10 地域と連携した安全教育の充実と安全・安心な教育環境の整備 家庭や地域、関係諸機関との連携・協力を努める。	教職員	100	A	A	◆全体的に高い肯定率である。学校長の登校指導や通信、ホームページ等での発信が伝わっている成果ではないだろうか。餅つき等、地域の方々との活動がコロナ前に戻りつつあり、触れ合う活動が増えてきた。 ◇学校便りやホームページ等で継続的な情報発信を行う。通学路・学校施設など、教職員は常に「安全かどうか」を考え、点検を行う。また、保護者や関係機関等との連携・協力を密にし、情報を得るようにする。
		児童				
		保護者	97	A		
		地域関係者	100	A		
	11 系統的实践による危機回避能力・対応力、自助・互助・共助の育成を図る。	教職員	100	A	A	
		児童	98	A		
		保護者	98	A		
		地域関係者	98	A		
<p>学校運営協議会委員の所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域とのつながりを大切にして、子どもたちの喜びを深めている。 ○登下校時に事故のないよう指導してくれている方々に感謝している。 ○学校での避難訓練、交通安全教室など、必要に応じて声を掛けていただければ協力したい。 ○学校での防災教育のおかげで子どもたちの方が防災に対する意識が高いと思う。ここで地震が起きた場合はどこで逃げるのかということ聞かれることもあるので、私たち保護者ももっと意識を高めて生活していきたいと思う。 ○若い教職員にはできるだけ防災士の資格を取ってもらい、今以上に防災教育に取り組んでほしい。 ○城辺保育所としては、ぜひ保・小・中合同の避難訓練を行いたい。計画を立ててもらいたい。 						
<p>学校の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月の「いのちの日」に登校指導・安全点検を行っているが、地震等の災害時には安全かどうかという視点で行う。また、保護者や関係機関等との連携・協力を密にし、情報を得るようにする。 ○地震の避難訓練では、余震や室内待機の場合に加え、けが人や通信障害が生じた場合など、いろいろなパターンで行ってみる。 ○若い教職員だけでなく学校全体で防災士の資格取得について呼び掛け、実践力を高める。 ○地理的条件を生かして、保育所・小学校・中学校が連携した合同避難訓練ができるよう計画を立てる。また、引き渡し訓練や避難所運営についても保護者や地域住民、関係機関等と連携して行う。 						
5	12 人権・同和教育と特別支援教育の充実 差別の現実に学ぶ研修と実践に努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者ともに高い肯定率である。校区別人権・同和教育懇談会において坂本氏の講演を聞くことにより、生命尊重の意識を高めることができた。学校・学年便り・ホームページ等で発信したことが、保護者・地域関係者との共通理解につながったと考える。人権・同和教育に関する研修・人権啓発室や大森文化会館が主催する研修会等に参加することにより、教職員の意識も更に高まった。 ◇今後も地域に学ぶ研修等に努め、人権・同和教育指導計画を基にしながら、差別の解消につながる意欲や態度・技能を持った児童の育成に努める。また、学校・保護者・地域との連携・協働に努める。
		児童	95	A		
		保護者	96	A		
		地域関係者				
	13 児童一人一人の教育的ニーズを把握した組織的・継続的な指導・支援に努める。	教職員	100	A	B	
		児童	87	B		
		保護者	87	B		
		地域関係者	94	A		
<p>学校運営協議会委員の所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「先生に相談できる」項目が伸びたことは、すばらしいと思う。「相談できない」児童への心を開く対応もお願いしたい。 ○自分を前に出して言動できる児童はすばらしい。 ○校区別人権・同和教育懇談会で坂本さんの講演を聞くことは、親も子ども命の大切さを考えるよい機会になったと思う。当日休んでいて講演を聞けなかった子もいるので、何年後かにまた講演してもらいたい。 ○相手の立場や気持ちが分かる児童が増えるといい。 ○一人一人の教育的ニーズを把握して共通理解を図り、継続的な指導・支援を続けてほしい。 						
<p>学校の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後も地域に学ぶ研修等に努め、人権・同和教育指導計画を基にしながら、差別の解消につながる意欲や態度・技能を持った児童の育成に努める。 ○今後もつくし会をはじめとする研修会等に積極的に参加し、教職員の理解と認識を深めるとともに、人権感覚や感性を磨く。 ○特別支援教育の充実については、一人一人の教育的ニーズを把握して、共通理解を図り取り組んでいく。 						

【評価基準】					判定	考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標		目標	評価者	目標値 肯定90%以上			
3	5 授業力の向上 (主体的・対話的で深い学び、個に応じた指導、ICT活用)を図る。	教職員	100	A	A	◆全体的に高い肯定率であり、各項目で肯定率が上がっている。研究会に向けての授業研究、授業実践を重ねることで、対話的な学びをより進めることができた。児童は、友達との学び合いで学習する楽しさを感じたり、自分の学力の高まりを実感したりしている。また、学習用端末の活用は、児童の主体性を高めたり、自分の考えを表現することへの抵抗感を軽減したりすることに効果が見られた。また、新型コロナウイルス感染症関連でオンライン授業を活用する事例が多かった。登校することができなくても、なるべく早く対応し、可能な限り学習の機会を保障してきた。 ◇ICTの効果的な活用を推進していく。補充学習を継続し、学習内容の定着に努め、学校内での状況や情報を保護者に発信していく。	
		児童	96	A			
		保護者	87	B			
		地域関係者	100	A			
	6 家庭学習の習慣化に努める。	教職員	100	A	C		
		児童	75	C			
		保護者	73	C			
		地域関係者					
	7 家庭読書の習慣化に努める。	教職員	94	A	C		◆教職員は高いが、児童、保護者はともに低い肯定率である。学校で朝読書や隙間時間などではよく読書をしているが、家庭で読書をしている児童は少ないのではないかと思われる。週に一度は図書室で本を借りるように声を掛け、週末読書の習慣づけを図る。読書週間に合わせて実施した親子読書は児童・保護者共に好評であった。冬休みの宿題としても実施している。 ◇今後も定期的に、週末親子読書を宿題として、読書時間や機会の確保に努める。
		児童	65	C			
		保護者	51	D			
		地域関係者					
8 道徳教育の充実と自他を認め合う集団づくりを努める。	教職員	100	A	A			
	児童	91	A				
	保護者	96	A				
	地域関係者						
9 自己の体力向上・健康保持増進に取り組み態度を育成する。	教職員	100	A	B			
	児童	86	B				
	保護者	83	B				
	地域関係者						
学校運営協議会委員の所見	<p>○目標7について、家庭では平日は宿題や習い事、遊びなどで、なかなか読書の時間が取れないと思う。週末親子読書や週末読書(土日仕事の保護者もいるので負担にならないよう子どもだけの宿題)の時間を増やしてもいいと思う。宿題が読書だけになるので、子どもたちは喜ぶ。</p> <p>○登校できない児童にオンライン授業の実施等の対応、休んでいても安心して授業に参加していた。コロナ禍の中、熱心に指導してくださっている先生方に感謝したい。</p> <p>○家庭学習や家庭読書の習慣化はなかなか難しい。読書好きな人が、なぜ好きになったのか、きっかけなどを聞き取り、活用してみたい。</p> <p>○学習内容の定着や学習時間を意識した家庭学習をこれからも続けてほしい。</p> <p>○子どもが興味・関心がある本を購入してほしい。公民館の図書の予算が増えたので、学校と重ならないように購入したい。</p>						
学校の対応	<p>○目標の学習時間(低学年30分、中学年40分、高学年60分)を意識して家庭学習をするように、児童や保護者に再度周知する。また、教職員も家庭学習の目安時間を考えて、宿題を出すようにする。</p> <p>○今後も、好評な週末親子読書等を宿題として、読書時間や機会の確保に努める。</p> <p>○読書集会等を活用し、読書好きな児童から本を好きになったきっかけを聞き、本好きになるヒントをもらうことによって、本を読んでみようという意欲の向上を図る。</p> <p>○児童の興味・関心を反映した図書を購入し、読みたい本がたくさんある環境に努める。</p> <p>○公民館に蔵書リストを提供し、学校にない本を購入してもらうことによって、本の選択肢を広げる。</p>						

【評価基準】					考察(◆)と改善方策(◇)
重点目標	目 標	評価者	目標値 肯定90%以上	判定	
6	14 GIGAスクール構想の意義を理解した具体的な実践を生み出す組織的な研修に努める。	教職員	100	A	◆教職員・保護者ともに高い肯定率であるが、引き続き教職員は実践に向けて、目標を高く持ち、組織的研修をする必要がある。 ◆学習用端末・デジタル教科書を活用し、各学年に応じた学習形態を工夫・改善しながら、全校での研修の充実が図られ、参観日等での実践に向けて共通理解ができた。 ◆ICT指導員のきめ細かいサポート体制や、教職員や支援員に対する児童に必要な実践的な研修が充実している。 ◇発達段階に応じた児童に寄り添ったICTを活用した授業等の実践方法を構築し、記録を累積していく。
		児 童			
		保護者	98	A	
		地域関係者			
	15 教員育成指標に基づく、個人目標の設定とPDCAサイクルによる自己研鑽に努める。	教職員	100	A	◆中間期は肯定率88%であったが、学年末は100%の肯定率となった。しかし、保護者や地域住民から、職員の言動について御指摘があったことを念頭に置き、児童へ接することを忘れてはならない。 ◇引き続き、教員育成指標に基づく、個人目標の設定とPDCAサイクルによる自己研鑽に努める。同時に社会が急速に変化するウィズコロナの中でも、学び続ける姿勢を忘れない。また、教育情報の収集を行い、共通理解を図りながら、研修に努め、共通実践していく。
		児 童			
		保護者			
		地域関係者			
学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書等のデジタル化が進んでいるが、合理的配慮やノート（書くこと）の大切さも考慮に入れて指導してほしい。 ○「チーム城辺」すばらしい。 ○先生方の努力が見られる。 ○高い肯定率で、先生方は努力されていると思う。 ○児童に寄り添ったICTを活用した授業をしていただき、これからも続けてほしい。 				
学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、児童用のデジタル教科書が導入されてくる。ICTを活用した学習がますます増えてくるが、ノート（書くこと）の大切さも考慮に入れ、ベストミックスを模索していきたい。 ○引き続き、教員育成指標に基づく、個人目標の設定とPDCAサイクルによる自己研鑽に努める。同時に社会が急速に変化するウィズコロナの中でも、学び続ける姿勢を忘れない。また、教育情報の収集を行い、共通理解を図りながら、研修に努め、共通実践していく。 				



< 2学期の学校運営協議会の様子 >